３１大泉附中第６７５号
令和２年３月２６日

平成３１年度　東京都立大泉高等学校附属中学校経営報告

１　今年度の取組目標と方策

（１）　教育活動の取組目標と方策

①　知的探究活動

ア　高等学校における知的探究活動「探究と創造（ＱＣ）」への確実な接続を目指して、中学校段階で探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識・ノウハウを体系的に習得させる。

知的探究部が主体となり、「課題発掘セミナー」を軸として積極的に外部機関や様々な分野の専門家を招いて探究力の基礎となる諸能力を養うことができた。 学年単位、あるいは学年の縦のつながりを活用し、総合的な学習の時間を有効に使うことによって、各行事の事前学習や事後学習を探究的に行い、ポスターセッションやパワーポイントによるプレゼンテーション等を積極的に実施した。その結果、論理的思考力や表現力、判断力を養うことができた。

②　進路指導

ア　総合的な学習の時間における探究活動とキャリア教育により、自己についての理解を深めるとともに「１０年後の自分」をイメージし、その実現を図るために生徒の発達段階に応じた目標を設定させ、高等学校へとつなげる。

イ　生徒の発達段階に応じて自己の能力や適性を把握させるとともに、探究活動を通じて大学や研究所と連携を図りながら主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒の希望する進路の実現を図る。

進路キャリア部と学年が協力して、生徒の発達段階に応じた進路ガイダンス及び保護者への進路意識を高めるための進路講話等を実施することで、自己理解を深めるとともに「10 年後の自分」を考えさせる機会を作った。また、いずみ会と協力しての進路講話を実施した。 職場体験活動については、職場体験及び事前・事後学習において、職場体験先の企業等と積極的に交流することによって、職業意識を高め、社会性を養うことができた。

③　学習指導

ア　英語、数学において少人数指導を実施することにより基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、発展的な学習も積極的に取り入れることによりより一層の学力の向上を図る。

イ　ティーチャー・イン・レディネス（ＴＩＲ）など放課後の学習を充実させることで、生徒の個別の学習課題の解決を図るとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。

ウ　課題発掘セミナーを通して知的好奇心を喚起させ、自発的な学習を促す。

エ　朝読書や読書月間の推進を通して、豊かな情操を培うとともに落ち着いた学習習慣の確立を図る。

オ　生徒一人ひとりの学習状況を把握して、生徒・保護者との三者面談を通して協力体制を構築し、生徒の学力の定着と伸長を図る。

カ　総合的な学習の時間において自ら課題を設定し、調査・研究・発表及び体験的な学習活動を

通して言語活動を充実させ、自ら学ぶ意欲を高めるとともに、論理的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力の育成を図る。

キ　全教科でアクティブラーニング・探究学習を推進する。

ク　全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。

昨年度よりさらにアクティブラーニング・探究学習を推進した。全教科で意識的に行うとともに、授業観察シートを改良し、校長自らが授業のポイントを確認して担当者にフィードバックすることで、さらなる定着を実現することができた。英語・数学において少人数指導を実施し、きめ細かい指導を行って基礎的な内容を定着させるとともに、レベルの高い授業も積極的に取り入れ、生徒の学力向上に努めた。
ＴＩＲについては、人材不足の課題もあるが、自校完成型教育システムを機能させるとともに、授業の補完的な要素も取り入れた。また、全学年で三者面談を夏季休業期間に実施、また個別に二者・三者面談を適宜実施した。

④　生活指導

ア　月１回の朝礼や道徳の授業を通して、規範意識や生活規律を向上させる。

イ　生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。

ウ　スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。

月１回の全体朝会において、全学年の生徒と教員が同じ目線で情報やルールを共有することができたが、インフルエンザにおける学級閉鎖や３月の臨時休業期間もあったことから、開催できない時期もあった。
「挨拶の励行」については、生徒会での「あいさつ運動」が実施されたこともあり、中学生の挨拶がきちんと行われるようになったという評価を得るに至った。
スクールカウンセラー・養護教諭・担任との連携を強化し、いじめに発展する前段階での対応に努めるとともに、学校いじめ対策委員会においては、いじめ関連以外の特別な支援に関するケース会議も積極的に実施された。

⑤　特別活動・部活動

ア　学校行事や委員会活動、部活動など、高等学校との連携を通して、豊かな人間性とリーダーとして活躍できる資質を育成する。

イ　生徒会活動を通して、本校の一員としての自覚と責任感を深めさせる。

ウ　３年間毎年実施する宿泊を伴う行事を通して、望ましい人間関係を育てるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成を図る。

学校行事や部活動においては、中高連携した活動が行われ、縦の交流を深めることができた。また、とくに部活動については、各種大会で表彰されるケースも多く見られた。高校生のリーダーシップを体感する機会が常にあることで、リーダーとして活躍できる資質を養うことができた。宿泊行事においては、実行委員長を中心に班行動を機能させることによって、リーダーシップや望ましい人間関係を構築することができた。

⑥　国際理解教育・国際交流の推進

ア　ＪＥＴ・ＡＬＴとの交流やⅢ学年における「国際理解」、Ⅱ学年「国内留学」等の取組を通して、国際社会への興味・関心を高める。

イ　国際交流コンシェルジュと連携を取りながら留学生や学校訪問の受け入れを行なう。

Ⅰ学年においてはＪＥＴ・ＡＬＴを積極的に活用して国際社会への興味・関心を高めさせるとともに、英語の活用能力を育成したが、学年の集大成であるＴＧＧ英語研修については、新型コロナ感染症対策に伴い、中止を余儀なくされた。Ⅱ学年においては「ブリティッシュヒルズ」宿泊研修を通して、英語活用能力をさらに高めた。Ⅲ学年においてはオンライン英会話の授業を導入して年間を通して国際理解教育・国際交流の推進に努めるとともに、１２月には東京体験スクールによる短期留学生を受け入れ、国際理解教育・国際交流の推進に新たな一歩を刻むことができた。

⑦　健康づくり

ア　校内美化を推進し、健康的で安全な学習環境づくりに努める。

イ　防災ノートや安全教育プログラム等を活用して、危険を予測し、回避する能力や他者や地域の安全に貢献できる資質・能力を育成する。

ウ　養護教諭やスクールカウンセラーとの連携を図り、全校的な教育相談体制の充実を図り、心の病の早期発見を図る。

生活指導部を中心に校内の美化を推進するとともに、学年で美化意識を強化することによってかなり、校内美化が実践されるようになった。

防災教育について、練馬区と協力し、生徒への防災意識を高めさせることができた。

スクールカウンセラーによる１年生の全員面談を、４月の健康診断時において早期に実施することで、カウンセラーにつながらない生徒とも話を聞くことができ、学校カウンセラーの支援を生徒全員に意識させることができた。また、特別な支援が必要な生徒への対応については、教職員の意識も含めて学校体制を整備していく必要がある。

⑧　食育の推進

ア　保健体育や技術・家庭科等の授業や給食指導を通して食育の推進を図る。

栄養教諭による専門的な給食指導によって、食に対する教育が年間を通して行われた。とくに給食メニューの説明や掲示物が例年に比べ格段に増加し、これまで以上に食育が推進され、食の大切さとともに、生命に対する畏敬の念を養うことができた。また、技術の授業における栽培や、家庭科の授業を通して食育の推進に努めるとともに、日本文化プログラムを活用して和食の第一人者による講義を各学年で実施することができた。

⑨　オリンピック・パラリンピック教育の推進

ア　オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を通し、我が国と世界の国々の歴史・文化・習慣などを学ぶ。

総合的な学習の時間、道徳や体育の授業等を通してアスリートに関する学習を実践するとともに、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に向けて準備を進めることができた。

⑩　自殺対策に資する教育の推進

ア　東京都教育委員会作成資料「SOS の出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

集会を通じ、「SOS の出し方に関する教育を推進していくための指導資料」DVD を用い、自殺予防に努めた。発言や行動の変化や体調の変化など、周囲の人の変化に敏感になり、心の悩みや様々な問題を抱えている人が発する周りへのサインに気づいたり、自身が悩みを抱えている場合には教員や保護者に相談したりするよう、集会の際に呼びかけている。 その結果、担任、養護教諭や SC への相談につながっている。

⑪　校内環境の整備

ア　施設の安全管理を徹底する。

イ　自習室や教室でのコートの保管場所等を改善し、学習環境の整備を推進する。

毎日管理職による見回りを徹底することで、施設の安全管理を行うことができた。とくに台風や大雨時の施設管理を徹底し、速やかな異状発見に努めることができた。また、自習室の整備をさらに進め、各学級にコート掛けを設置して生徒の学習環境を整備した。

⑫　ライフ・ワーク・バランスの推進

ア　「学校における働き方改革推進プラン」に基づき学校の業務改善を推進する。

イ　計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

ウ　日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。

エ　管理職は教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。

勤務時間が超過してしまう教職員の勤務状況や健康状況を把握するとともに、休暇の取得を勧め、また休暇を取りやすい職場風土づくりを推進した。また、積極的にコミュニケーションを取ることによって、明るい職場作りに努めるとともに、教職員が気軽に相談しやすい雰囲気を作るように努めた。

⑬　経営企画室と一体となった学校経営の推進

ア　経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。

イ　施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。

ウ　経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

年間を通して、施設管理と予算執行・補正を適切に行った。施設・設備点検を随時行い、破損個所などを発見した際、速やかに修繕等行い、事故防止に努めた。

⑭　その他

ア　年間を通した服務事故防止研修会を実施、個人情報の管理、服務管理、危機管理の徹底を図る。

他校の事例などを用い、年に数回服務事故防止研修を行った。机上の整理や個人情報の適切な管理など、日頃から意識をするよう教職員全体に伝えることができたが、まだ徹底されていない点もみられた。

（２）重点目標と方策

①　６年間を見通した系統的・組織的な探究活動の推進

ア　高等学校における知的探究活動「探究と創造（ＱＣ）」への確実な接続を目指して、中学校段階で新たな系統的なプログラムを実施する。自ら課題を設定するための原動力となる好奇心を高めるために、様々な活動を行なうことで、探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識・ノウハウを体系的に習得させる。

イ　各教科における授業・行事等を通して、主体的な学びを行なわせる場面を設定する。

各学年において、探究活動をすべての学習活動の柱として組織的に教育活動を展開することができた。中Ｉの段階からポスターセッションの機会を多く持ち、ＲＱを設定する段階から習得させることができた。また、Ｉ・Ⅱ年生で合同ポスターセッションを初めて開催し、また積極的にＱＣの見学会を実施する等、６年間一貫に根差した探究活動を展開した

②　６年間を見通した系統的・組織的な進路指導キャリア教育から進路指導へと６年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

中高を見通した進路指導計画の作成という点では、いまだ未完成であるが、今年度の高校卒業生の進学実績とこれまでの実績を経年比較すると、中学での学習習慣の構築と学力推移調査での成績が、高校卒業時の進学実績に大きく関わってくることが明らかになった。 大学受験結果の分析を中学の学習活動にフィードバックし、また卒業生の６年間（もしくは３年間）の成績分析データを、担任による指導資料として中学の早い段階から活用していくことの重要性を学内で浸透させていく必要がある。

③　学力のさらなる向上

アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、６年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム大泉」としての組織的な教科指導力を向上し、生徒の学力向上を推進する。

アクティブラーニング等を用い、新しい学力観に基づく、各種能力の育成に取り組んだ。教科会を通して、教科における６年間指導計画の作成を推進した。完全中高一貫化を令和４年度に控え、全教科において６年間の指導計画を完成させるべく一層推進していく。 校内での相互授業参観はほとんどの教員が２回以上行い、他校での授業参観など若手教員を中心に実施できた。来年も授業参観を強化していくとともに、他校の模範授業への出張機会も増やしていく。

④　豊かな心と思いやりの心の育成道徳や学校行事、部活動など教育活動全体を通じて、豊かな心と思いやりの心をはぐくみ、人間性を高める。

特別の教科「道徳」は、道徳推進教師を中心として、最先端の情報に基づき授業を実践した。また、校内で道徳推進教師の授業を参観できる機会を作り、「生徒と授業者が、ともに意欲的に取り組むことができる授業」を校内で広めることができるように努めた。 また、昨年同様、公立学校の指導教諭が行う講習会等に参加し、校内研修を実施するとともに、道徳プログラムの構築に努めた。

２　数値目標

（１）　学習指導

生徒の授業満足度	９０％	学校評価アンケート　９１％
講習満足度	９０％	１００％
定例教科会	１２回	１２回
教員相互授業見学	３回／年	３回／年

（２）生活指導

部活動地域大会以上出場	４部	３部
部活動入部率	１００％	９９％
行事満足度	７５％	学校評価アンケート　９５％
校内美化	８０％	学校評価アンケート　８８％

（３）キャリア教育

校内模試	３回／年	３回／年
生徒面談	２回／年	２回／年
三者面談	１回／年	１回／年
模擬分析会	２回／各学年	２回／各学年

（４）入学選抜

入選倍率	６.５０倍以上	**５．９２倍（昨年度６．４倍）**

（５）広報活動

学校説明会等来校者	３，３００組	**２，８００組**
塾・予備校説明会	１２回以上	**５回**
ホームページ更新	５００回以上	**７０１回**

３　次年度以降の課題と対応等

（１）学校運営

・学校評価アンケートの結果を見ると、学校生活についての満足度はほぼすべての項目で昨年度を上回り、一定の成果があったと考えることができる。ただ、宿題・課題の項目については昨年度を下回った。「多い」、逆に「少ない」どちらの要素も含まれていることが想定されるが、生徒活動の実態を把握しながら、教科主任会で最も適切なレベルを設定して、校内での共通理解を図っていく。

・高等学校の「探究と創造（ＱＣ）」の基礎段階としての中学探究活動の位置づけを設定することができた。知的探究部と学年・教科がさらに連携して、課題発掘セミナーのさらなる充実を図るとともに、教科への落とし込みを推進していく。

・令和４年（２０２２年）高等学校募集停止に伴う中学校学級増に対応するための準備を進める。

・令和４年（２０２２年）高等学校創立８０周年記念式典と同時に中学校１２周年記念式典のための準備を進める。

（２）進路指導

・進路キャリア部が中心となって活動を行ってきたが、今年度は高校における進路指導を中学段階まで下ろして、６年間一貫に根差した進路指導を行うことができた。しかしながら、生徒、保護者それぞれにその取組みが満足度の向上につながっていない現実がある。今年度の高校卒業生の進学における健闘を契機に、生徒や保護者に対して発信力を高めるとともに、中学段階が高校卒業時に大きな影響を与えることを広く浸透させるべく、保護者会や講演会を充実させる。

（３）学習指導

・アクティブラーニングによる授業がほぼ全教科において浸透し、大きな成果が見られた。

・教科における６年間の指導計画作成が進行している。令和４年からの完全中高一貫化を踏まえて、全教科で作成できるように進めていく。

（４）生活指導

・生徒の挨拶励行については、一定の成果を得た。教職員についても積極的に励行を推進する。また、校内美化についても一定の成果を得たが、引き続き強化目標として設定する。

（５）道徳指導

・道徳推進教師を中心に、積極的に道徳の授業を実施するとともに、校内研修を実施した。ま

た評価方法や授業計画を研究し、中学担任団への理解も深まった。今後も校外の道徳指導教諭と連携を図り、さらなる充実を目指す。